

2019年度事業報告

事業概要

2019年度は、地域の若い人、特に子育て世代にWEショップを知ってもらうことを重点に子ども服お下がり交換会、ふじのき台マルシェでの出店等、積極的に活動しました。

・特に子ども服お下がり交換会は、タウンニュースやロコっち(センター南の地元情報サイト)、かながわ新聞、朝日新聞に記事が載り、更に生活クラブつづき commons とのコラボ企画となったことで、生活クラブの組合員にもWEショップつづきを知ってもらえ、新たな来店につながりました。

ロコっちにはWEショップのセールやキャンペーンの情報も載せてもらえ、そこからふじのき台マルシェとのつながりもでき、また新栄地域ケアプラザとはコラボ企画「リメイク講座」を開催するなど、地域の中でのネットワークが広がりました。

地域の貧困の問題にも目を向け、フードドライブの取組みも行い、これまでとは違う客層へのアプローチを試みました。

NPOの活動の目的の一つである海外支援では、新たな支援先を探し、直接支援を目的としたクリスマスキャンペーンを行いました。

上半期は、異常気象の影響もあり、売上減に苦戦しましたが、後半は価格の設定や売り場の工夫などで、盛り返しました。

事業報告

1. 資源のリユースリサイクルを推進する事業

2019年度リユースリサイクル売上 5,339,913 円 (目標比 94%、前年比 96%)

2019年度ショップボランティア 新規登録 5名

2019年度は、リユースリサイクル売上目標 570万円、ショップボランティア参加目標 新規登録6名 常時2人体制をめざす という目標に向けて、ショップ事業を進めました。

土曜日に活動するボランティア2名、閉店まで活動できるボランティア3名ができ、シフト制をとっていないにもかかわらず、営業時間のうち二人体制ができた時間は、6割近くになりました。(年初は4割程度)

※月ごとの詳細は2019年度活動実績を参照

実績	売り上げ	顧客数	ボランティア延べ(実人数)	寄付者(新規)
2019年度	5,339,913円	6,797人	753人(19人)	1853人(88)
2018年度	5,538,252円	6,970人	703人(16人)	1990人(79)
前年比	96%	98%	107%(119%)	93%(111%)

1) 寄付された品を最大限有効に活用するために、スピーディーに店頭に出すこと、適正価格を調べ適格な

値付けをすることを目指して努力しました。衣類は、こまめな入れ替えを心掛けるとともに、ショップからのお勧めコーナーを作り、良品衣類が多くのお客様の目に留まるようにしました。雑貨は季節感を踏まえてタイムリーな品出しを心掛け、できるだけ手に取ってもらえるようにしています。アニバーサリーセール、夏・冬のセールに加えて、新春市を2日に延長、2月に「冬の売り尽くしセール」を開催し、売上増につなげました。若い世代の顧客増を目指し「お下がり交換会」を2回企画し、第2回目は生活クラブとのコラボ企画へと発展しました。クリスマスキャンペーンではバッグやアクセサリなど良品寄付を集め、高い売り上げをあげることができました。

2)若い顧客の獲得を目指して企画した「お下がり交換会」はタウンニュース、ロコっちなどのメディアに取り上げられました。また、区内の子育て支援施設などにもチラシを配架し、多くの子育て世代の来店につながりました。

ロコっちのつながりから、ふじのき台マルシェへの出展の機会を得て、来場者にチラシを配布しショップの存在をアピールしました。

アクセサリやバッグなど具体的な寄付のお願いを掲示し、クリスマスキャンペーンの成功へとつなげることができました。

3)今年度は、ボランティア面接を実施し、ボランティアからのアイデアや要望を聞き取りショップの運営に活かしました。長期お休みのボランティアに連絡を取り、復帰してもらうこともできました。チラシやホームページ等で呼びかけ、5名の新規ボランティア登録がありました。

着物フェア期間中は、着物ボランティア3名の参加があったことに加え、リメイクチームからも7名が協力しました。ボランティアニュースの発行は2回のみでしたが、必要な情報を店内に掲示してショップの情報を共有しショップ運営に活かしました。午後のシフトに入るボランティア、土曜日に活動するボランティアが複数でき、常時2人体制の構築に近づきました。

★ボランティアミーティング

11月 参加 5名 新しい支援先 ACEについて学ぶ

クリスマスキャンペーン企画の共有、意見交換

4)リメイクチームでは年間活動計画を立て毎月活動しました。リメイク品作成は季節に合わせて計画を立て効率よく活動できるよう進めました。6月にはWE シップみどりに研修に行き、販売につながる作品のポイントについて学びました。9月には、新栄地域プラザとの共同企画として、リメイク講座「ネクタイで作るネックレス」で講師を担い、リメイクを通して地域にWE ショップをアピールできました。11月の「WE フェスタ」2019に初めて参加し、リメイク品作成から当日参加までメンバー全員で自主的に活動し、18620円を売り上げることができました。

5)10月にフードバンクかながわ*と連携して、家庭で余っている食品の寄付を募り、食べ物に困窮する家庭や施設に届ける、「WE ドライブ」を実施しました。15名の協力で、段ボール2箱分の食品を送ることができ、地域に身近な貧困の問題提起をしました。

※神奈川県内の協同組合、労働組合、市民団体が作った一般社団法人で、WE21 ジャパンも連携している。

6) 資源の有効利用

整理整頓を心がけ、衣類は季節ごと、雑貨は品目ごとにまとめて管理し寄付品が有効活用されるように工夫しています。従来の「衣類・雑貨」というくくりを越え、テーマを設定し商品に付加価値をつけて販売しました。

WE21のトレード情報やショップ連絡会での情報交換を行い、アクセサリやバッグ、子ども服などショップ企画を成功させるために品物を送っていただきました。雑貨は月1回の「わくわく掘出し物市」に加えて、見切り品をセットにしお買得品として販売するなどの工夫をし、廃棄を減らす努力をしています。

ショップという拠点を生かし、フードドライブを実施、羽毛布団の回収を始め、WEショップが資源の有効活用に取り組んでいることをアピールしました。

WE21ジャパングループの一員として、家庭での使用済み食用油の回収に取組み、「WE油田つづき」を継続しました。 ■回収 230Kg (Co₂削減量 598kg) (前年比 96%)

本年度も、故繊維業者「ナカノ」を通じて衣類のリサイクルに努め、同社が開発したエコ手袋を販売しました。「飯室商店」「木村管工」を通じてガラス器や陶器のリサイクルを行いました。

リサイクル提携先

- 古布 : ナカノ(株) 横浜市金沢区福浦2丁目8-8
- ガラス : (有)飯室商店 神奈川県綾瀬市早川 2605-47
- ガラス・陶器 : 木村管工(株) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 1120-1
- 廃食用油 : (株)ユーズ 東京都墨田区八広 3-39-5

- 【日時】 通年
- 【場所】 横浜市都筑区
- 【従事者】 運営委員6名 ボランティア月平均 63名
- 【受益対象者】 一般市民
- 【事業支出額】 4,857,931円

2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業（民際支援事業）

本年度は、新しい支援先を決めるにあたり、WE21ジャパン都筑としてどのような民際協力をしていくのかを、運営委員会で時間をかけて検討しました。

<支援先決定の経緯>

会員からのアンケートでは、平和、環境、貧困、女性の地位、子ども、経済などへの関心が高く、運営委員からは、地雷廃絶キャンペーンや、紅茶農園での子どもの教育支援、貧困から抜け出すためのライフスキル教育支援、カカオ、コットン農場での児童労働防止への取り組みへの支援などの民際協力事業案が出されました。

<支援先決定の理由>

本年度は、民際協力事業の妥当性、自立発展性や、支援を通して地域に何を伝えることが出来るかを考え、新しい民際協力先について時間をかけて検討をしました。

近年、ファッション業界では安価に購入できるファストファッションのみならず、ハイブランドにおいても、大量生産、大量消費、大量廃棄、そして生産者の過酷な労働などの問題が明るみになりました。そうした中、日本にも沢山のコットンやコットン製品が輸入されていますが、消費者である私たちの多くは、インドのコットンの栽培地での危険な児童労働の実態を知りません。児童労働の原因には「貧困」が挙げられますが、消費者として「安くモノを買いたい」という要望や、「安くモノを作って販売し、利益を上げたい」という企業の思惑が、生産者へのしわ寄せとなって、児童労働を生んでいるといえます。そこで都筑は、コットンの生産地インドでの児童労働をなくす取り組みを行っている(特非)ACE へ支援金を送ることに決定しました。現地では、子どもたちへの教育支援のみならず、お母さんの収入創出、職業訓練なども行い、女性のエンパワメントとなっています。

児童労働をなくす取り組みは、国連の掲げる SDGsのうちの一つであり、遠くの貧しい国だけの問題ではなく、モノにあふれた日本に暮らす私たちの消費のありかたにも、関係があることを、地域の人々に伝えていける事業であるという理由などから、支援先を決定しました。

1) 民際支援事業

①インドのコットン生産地における児童労働をなくす取り組み

助成団体: 特定非営利活動法人 ACE

現地 NGO: SEED (Society for people's Economic & Educational Development)

事業名: ピース・インド・プロジェクト

支援金額: 51,851 円

②イラク・シリア支援 チョコ募金

募金先: 特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク(JIM-NET)

事業名: イラクの小児がんの医療支援・シリア難民医療支援・福島の子ども支援

募金額: 67,657 円

④台風19号災害緊急支援

店頭にて募金箱を設置しました

寄付先: 特定非営利活動法人 災害人道医療支援会

寄付金額: 9,532 円

助成金および募金の総額

	寄付金・助成金	募金	計
ピースインドプロジェクト	43,175 円	8,676 円	51,851 円
JIM-NET チョコ募金		67,657 円	67,657 円
台風19号被害支援		9,532 円	9,532 円
合計	43,175 円	85,775 円	

2) 民際収益事業

①パレスチナオリーブオイル・オリーブ石けんの販売

イスラエル・パレスチナの平和のために設立されたオリーブオイル生産団体のガリラヤのシンディアナのオリーブオイル(2018年日本オリーブオイルソムリエ協会銀賞受賞)とパレスチナ西岸地域のナーブルスで生産されたオリーブ石けんを、店内で販売しました。

②ジンジャーティー販売

フィリピンの北ルソンの山岳地域の3つの村の生産者組織が、収入向上と保健事業のために生産するジンジャーティ(しょうが糖)をWE21グループで計画購入し、店内で販売しました。

③シサムコーヒー販売

コーヒーの森事業で収穫できたフィリピン北ルソンのオーガニック栽培のコーヒーを店内で販売しました。カピタコーヒーから、シサムコーヒーに名前を変え、パッケージも新しくなりました。

④タオル販売(ソルト・パヤタス、福島オーガニックコットン)

今年度の仕入はありませんが、在庫品を店内で販売しました。

製品	支援団体	仕入額	販売数
オリーブ石鹸等オリーブ製品	合同会社パレスチナ・オリーブ	32,927 円	オリーブ石鹸 9 オリーブオイル 25
ジンジャーティ	ウバパス/ダイヨコン/ランパダ/ シュントック財団	10,500 円	22
シサムコーヒー	コーディレラ・グリーン・ネットワ ーク	0 円	5

【日時】 通年

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名

【受益対象者】 西日本の市民、アジア等(カンボジア・フィリピン・イラク・シリア・パレスチナ)の市民

【事業支出額】 190,430 円

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業(共育活動)

1) WE 講座の開催

民際支援や環境について理解を深める場として、WE 講座を開催しました。

■総企画 「地域に住む外国人を知ろう～多文化共生社会を目指して」

日時 2019年5月19日(日)

講師 宮城健さん(つづきMYプラザスタッフ 川崎市在住アルゼンチン出身)

参加者 11人

アルゼンチン出身、日本国籍を持ち、日本で家族と暮らしている宮城さんに、日本で暮らしていて感じ

たことや宮城さんから見た日本人について、お話を伺い意見交換をしました。外国人と言っても多様であること、かつての日本の移民政策のこと、母語と第二言語の問題、そして教育の場での問題点について知ることが出来、有意義な意見交換の場となりました。

2)クリスマス支援キャンペーン

ブランドバッグや良品アクセサリーの寄付を募り、キャンペーン品の売り上げの2割(18,920円)を、ピース・インド・プロジェクトの支援金の一部としました。

「ACE」のインドピースプロジェクトで支援するインドの子どもが、自らの意思で未来を切り開けるようにという願いを込めるとともに、WE ショップに関わる人々にとっても心温まるクリスマスプレゼントになるようにという思いでクリスマスキャンペーンを企画、ブランドバッグや良品アクセサリーの寄付を募り、レジ脇の棚をクリスマスらしい華やかなコーナーに設え販売しました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 9,043円

4. 法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

1) 催事開始前に、店頭やHP、ブログ、地域の広報誌、保育園など、昨年度よりも広範囲に情報を提供し、既存のお客様に加えて、新規の顧客獲得に努めました。

2) WE21 ジャパン都筑ニュースを年3回発行し、発行時期の催事や活動を紹介しました。チラシ作成講座に参加した成果を活かし、お客様に分かりやすく、かつ興味をもってもらえるように紙面構成を工夫しました。会員、ボランティアの協力で地域に配布、地域拠点へ設置しました。

4月 4500部 支援先情報(2018年度内容含む)、アニバーサリーセール、

9月 900部 WEドライブ、支援先討議の様子、着物フェア

12月 600部 支援先決定

3) 新装したリーフレットを来店したお客様や催事時などに配布し、お店や活動内容の周知拡大に努めました。

4) ミニコミ紙(年4回)や地域の情報誌、チラシ(2か月に1度発行)を地域拠点に設置し、新たにロコっち(地域情報発信媒体)に情報発信し、お店への集客をはかりました。

5) 店頭や店内に、パネルやポスターを掲示し、新たに決定した支援先情報や環境への配慮など、WE21 ジャパン都筑の活動を広く知ってもらうよう、充実させました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名 ボランティア15名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 125,397円

組織活動

1) 運営委員会

運営委員会は年間の日程を決定して毎月開催しました。運営委員の役割分担を明確にし、方針に沿って実施計画を立てて実行しました。

2) 会員

既存の会員にはニュース等で活動や WE 講座などの企画をお知らせし、活動に共感をしてもらうように努めました。新規の会員を増やすためには、ショップ内で来店された方にニュース等の広報物を使い活動のアピールを行いました。

認定 NPO 法人として寄付メリットの広報や新たに開設した振込口座を活用して寄付をアピールしたことで数名の会員から寄付を集めることができ、賛助会員も増やすことができました。

正会員実績 29名 (2018 年度末30名) 目標32名

賛助会員実績 8名 (2018 年度末 4名) 目標10名

3) 事務局体制

組織事務局を4月から12月までの間設置し、全体の組織運営がスムーズに行くよう必要なマネージメントを行いました。会計、税務、法人運営の届け出等については、外部に委託しました。

ショップ事務局は円滑に事業計画に沿って運営することができました。

4) ボランティア活動

着物ボランティア、リメイクチーム、ショップボランティアは、それぞれ特技を生かし、ショップのために力を発揮して貢献してもらうことができました。

5) WE21ジャパングループとの連携

WE21ジャパン・グループ会議、羽毛布団学習会、次世代交流カフェ、JIM-NET 報告会、支援ハンドブック学習会、ショップスタッフ連絡会に参加し、運営に役立てました。

6) 地域との連携

中学校の職業体験(2名)の受け入れをしました。

つづき MY プラザのハート de ボランティア企画から1名の高校生がショップボランティアに参加しました。フェアトレード品のジンジャーティーについて学び、ショップで試飲販売を行いました。

センター南の地域情報発信サイト「ロコっち」を通して、ふじの木台マルシェへの参加につながりました。

生活クラブつづき commons との連携ができ、3月の「子ども服おさがり交換会」は、commons の広報に載せてもらい、チラシ持参の人(5名)に、つづき commons からのプレゼントを渡し、その後の来店につながっています。

新栄地域ケアプラザとの共催企画、「リメイク講座」を開催し、地域とのつながりを作ることができました。

つづき人交流フェスタ(都筑区主催)のパネル展示で参加し、WE21ジャパン都筑の活動を紹介しました。

地域通貨「リーフ」を活用して、地域のボランティア活動を応援しました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名 ボランティア15名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 440,035 円